

寛永寺：清水観音堂

清水観音堂は、上野公園にある、建立年代が 1600 年代後半に遡る数少ない仏教建造物の 1 つです。当時、この地域全体が寛永寺の広大な敷地でした。寛永寺は徳川幕府と深いつながりがあり、当時江戸で最も繁栄し影響力のあった寺の 1 つでした。日本の事実上の首都としての江戸、また国の統治者としての皇室の拠点である京都のふさわしい後継者としての江戸の地位の象徴でした。この伝統を強調するため、寛永寺の開祖で影響力のある仏僧の天海（1536?～1643 年）は、京都ならではの建造物の幾つかを自らの寺で再現しようとしていました。清水観音堂はそのような建造物の 1 つです。世界遺産であり、丘にある舞台が有名な 8 世紀の清水寺を手本にしています。

清水観音堂は 1631 年に建てられましたが、1694 年に現在の場所に移されました。現在の
上野公園の噴水広場がある場所に寛永寺の本堂を建てることになったからです。清水観音堂の元々の場所と現在の場所は共に、京都の清水寺がある丘に似ていることで選ばれました。本堂の中に座す千手観音も京都の清水寺から運ばれたものです。清水観音堂に寄進された像は、平安時代（794～1185 年）のものとされており、毎年 2 月の一日間だけ公開されます。子育て観音の像は毎日公開されており、新たに親になった人たちが子どもの誕生後に人形を捧げます。訪問者は祈りを捧げた後、本堂の舞台から「月の松」を観賞できます。松の木の枝が曲げられて円形になっています。これは、江戸時代（1603～1868 年）にここで育った同形の木を再現するため 2012 年に植えられたものです。歌川広重（1797～1858 年）の有名な浮世絵にも描かれています。